漢詩の風景 (3)

石川 忠久

A 春暁(シュンギョウ)　孟浩然(モウコウネン)

春眠暁を覚えず
処処啼鳥を聞く
夜来風雨の声
花落つること知る多少

春眠不レ覚レ暁
処処聞ニ啼鳥一
夜来風雨声
花落知多少

　このような、四句から成る漢詩を、絶句といいます。短い詩型ですから、あれもこれも歌い込むことはできません。そこで、詩人は、ここぞという一点を切り取って心の高まりや感動を表現します。その工夫の一つが、「起承転結」という構成法です。

（中略）

　第一句は、歌い起こしで、起句といいます。起句が平凡だと詩は生きません。「春暁」では、春の眠りの心地よさを、朝になったことに気づかないと表現するところに、詩人の発想があります。第二句は承句といい、起句を承けてさらに展開します。第三句は転句で、場面が転換します。「夜」「風雨」という語が暗い雰囲気をかもし出し、前半の明るい情景から一変します。これが転換の妙味、読者に、おやっと思わせます。最後は、全体を締めくくる結句です。読者の眼前には、庭一面に散り敷いた花びらが、ぱっと広がります。花びらは雨にぬれ、朝日を浴びていよいよ鮮やかです。転句が暗いだけによけい印象が強くなるのです。そして、それが余韻となって、春の朝の気分が漂います。見事な収束です。

孟浩然

孟浩然は唐代の詩人。「春暁」は孟浩然が暮らしていた鹿門山の春の朝を、起承転結の構成でうたっている。

- 起句…歌い起こす
- 承句…起句を承けて展開する
- 転句…場面が転換する
- 結句…全体をまとめ結ぶ

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 「春眠暁を覚えず」が表す意味を選びなさい。

ア 春の気候は暖かで、朝うっかり眠ってしまうほどだ。
イ 春の明け方は忙しく、眠っていたことも覚えていない。
ウ 春の眠りは心地よく、夜が明けたことにも気づかない。

〔　　〕

(2) 「処処啼鳥を聞く」が表す意味を選びなさい。

ア あちらこちらで鳥の鳴く声が聞こえる。
イ どこかで鳥が鳴いていると聞いた。
ウ いつか鳥が鳴いている声が聞こえた。

〔　　〕

(3) 「花落つること知る多少」が表す内容を選びなさい。

ア 花はどれほど散っただろうかと、庭の様子を想像している。
イ 花が多少散っているのを、庭の近くで眺めている。
ウ 花は散ってしまうものだと、庭の花から感じている。

〔　　〕

(4) **A**の漢詩で、ゆうべのことを回想しているのは第何句か。漢数字で答えなさい。

第〔　　〕句